

## 香川県における茶園土壌の種類が一番茶の収量および品質に及ぼす影響

矢野 清・池内 洋・河田和利

香川県農業試験場研究報告 第 61 号(2010 年 3 月) 55-62

茶園土壌の種類が一番茶収量および収量構成要素や品質の指標となる全窒素含有率およびタンニン含有率に及ぼす影響を樹齢 5 年生 (1985 年) ~12 年生 (1992 年) と樹齢 19 年生 (1999 年) ~28 年生 (2008 年) の 2 期間で検討した。

1. 樹齢 5 ~12 年生の一番茶収量は、花崗岩土壌、洪積層土壌が三豊累層土壌より多く、樹齢を重ねるに従って直線的に増加した。樹齢 19 ~28 年生のそれは、洪積層土壌が最も多く、次いで三豊累層土壌で、花崗岩土壌が最も少なく、樹齢を重ねるに従って減少傾向であった。
2. 樹齢 5 ~12 年生の一番茶摘芽数は、花崗岩土壌、洪積層土壌が三豊累層土壌より多く、樹齢を重ねるに従って直線的に増加した。樹齢 19 ~28 年生のそれは、洪積層土壌、三豊累層土壌が多く、花崗岩土壌が少なく、樹齢を重ねるに従っては直線的に減少した。
3. 収量の多少は摘芽数の多少に大きく影響された。摘芽数の多少は三番茶芽生育の良否と秋整枝でせん除された枝数の差、その連年の繰り返し、さらに中切りなどに影響された。
4. 品質の指標となる一番茶全窒素含有率およびタンニン含有率は、土壌の種類による差はほとんど認められなかった。
5. 以上のことから、洪積層土壌は安定多収、花崗岩土壌は加齢に伴う生産力の低減が顕著、三豊累層土壌は初期生育が不良であった。一方、品質の指標となる全窒素含有率およびタンニン含有率は、土壌の種類による差はほとんど認められなかった。従って、茶園土壌としては洪積層土壌が最適であり、一方、花崗岩土壌や三豊累層土壌では何らかの土壌改善や肥培管理が必要であると考えられた。

キーワード：茶園土壌，花崗岩土壌，三豊累層土壌，洪積層土壌，樹齢，一番茶収量，品質